

第6回渡嘉敷村観光振興計画策定準備委員会
質疑応答 議事録

【実施日時】2017年11月29日(水) 18:00-20:30

【開催場所】渡嘉敷村役場(大会議室)

【出席者】委員(敬称略)

<策定準備委員会>

小嶺哲雄(策定準備委員会委員長)、小嶺国土、中馬直樹、国吉晴大、吉崎誠、
金城肇、金城渉、池松来、長谷和典、花咲宏基

オブザーバー：田中守

事務局(敬称略)

渡嘉敷村)：玉城広喜、内野珠子、新垣健太

ライ)：草間亜沙子、黒岩考自、山岸彩夏、本盛聡、諸崎そよか

石川)：石川武男(コーディネーター)

JTB)：池原和也、喜納淳 計 22名

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

皆さまこんばんは。本日は、皆さまにはお集まりいただきありがとうございます。第6回
目の準備委員会ということで、本日は、できるだけ素案をまとめ上げたいと思います。

素案はみなさんに配布しておりますので、中身を検討しながら、2時間協議をしていきたい
と思います。ご協力お願いします。議事の進行は事務局にお願いします。

石川)

皆さまこんばんは。今日のスケジュールは、前回、皆さまにお配りしているスケジュール
のとおりで、今回が第6回目の会議となっています。本日、皆さまに、素案に対して、新
たな意見、視点を出していただき、委員会後、加筆、修正し、策定員会に提出という流れ
になっております。

本日は大きくは2点。前回、皆さまからいただいた意見に基づいて、修正したものがあ
りますので、そちらを確認いただき、細かな修正点などを皆さまから意見をいただきます。
もう1点は、目標値という項目も今回作成して出させてさせていただいておりますので、そこ
についても皆さまから意見・考え方を提案いただいて、それを取りまとめるというところま
でが、今日の協議となっております。

まずは前回皆さまから出していただいた意見の取りまとめについて、ライヴスの黒岩から
ご説明させていただきます。

ライヴス黒岩)

皆さまこんばんは。私のほうから、資料の簡単な説明をさせていただきます。お手元に前回の第2回策定委員会と第5回策定準備委員会の議事録と意見をまとめたものを配布しています。基本理念の案一枚、そして、前回の体系について修正したものがA3表裏で2枚になります。それらをもとにして素案を作成しています。

それでは、資料についてご説明してまいります。前回、策定委員会と準備委員会の皆さまにいただいた意見を、こちらで整理をしました。こちらのA4のシートでご確認ください。また、急遽追加で修正になった部分がありまして、以前メールでお送りしたのから修正が加わった部分になるのですが、それは、ブルーの部分になります。

さて、修正に関してですが、皆さまからいただいた意見を一旦こちらで反映しました。それを役場各課、観光関係協力団体に意見をヒアリングしまして文言等を確認いただいて、それを反映した形で今回お出しをさせていただきます。

若干みなさんの意見から変わっている部分もありますので、その辺りを見ていただいて、意見をいただければと思います。素案についても、ご確認ください。

石川)

素案のところと言えば、先ほど黒岩から説明のあった30ページから49ページの部分がちょうど、皆さまから前回修正のあった項目になります。事前に資料をお送りしているので、読んでいただいていると思いますが、一度読み込む時間をとって、そこから皆さまおひとりずつ意見をいただければと思います。15分までいったん時間をとります。

<5分間資料読み込み>

石川)

おひとりずつ、質問、ご意見を伺っていきたくと思います。吉崎さんからお願いします。

吉崎誠 策定準備委員)

気になることがあります。まず、僕がこのツーリズム推進の項目で、村民に知ってもらいたいと話したのですが、前回だけでなく、その前から話をしていたのですが、学校の授業の一環として総合学習みたいなかたちで、環境のこととかを知る機会があるべきじゃないかなと思っています。青少年交流の家で働いていたのですが、その際、渡嘉敷小学校で、授業を行いました。毎回同じように、海に入るだけっていうのを繰り返していて、その中で、学校の方にも提案して、具体的に明確な目標・目的を設定してあげた方がいいのではと話をしていたのですが。なかなかそこまでいきませんでした。学校、教育委員会に協力してもらって、授業の中でそういったことを知ることが、とても大事だと思います。僕らが、今後、渡嘉敷島をどうこうしていくっていうよりも、もうちょっと若い世代の人

たちが渡嘉敷のことを、自然のことをもっと知っておくというのは大事だと思います。次ぎに、観光ガイドの育成というのを入れたほうがいいという話があったと思いますが、そこで気になるのが交流の家と協力を計りながら観光ガイドを育成するということです。何故、交流の家なのかなと気になりました。交流の家が、渡嘉敷の観光ガイドを育成するってというのは気になりました。どういう意図で、交流の家が入ったのでしょうか。

ライヴス黒岩)

交流の家には、教育的な機能があり、より関わっていきたいという意見もありました。いろいろな要素として観光の中にも教育的な視点を入れて欲しいという意見もあったので、追加しています。

ライヴス草間)

ガイド育成につながるようなプログラムをお持ちとのことで、一部のプログラムは、交流の家も協力できるのではというご意見でした。

吉崎誠 策定準備委員)

観光ガイドということになると、お客さんを受け入れて案内するっていう前提になっているので、料金が発生するっていうことに関わって、交流の家はお金を受け取ってはダメってということになると、ちょっと違うのではないかと。

ライヴス草間)

ガイドとして認定されるときに関わるということなのですが。

金城渉 策定準備委員) :

交流の家の事業ではなく、ガイドを育成する段階で協力しましょうということ。彼らのノウハウを受け入れてしまう。自分たちが運営するのではなく、ガイドの育成までの助けをしましょうということ。

石川)

ガイド育成という設計をするときのお手伝いをしますということですね。

金城渉 策定準備委員)

自分たちが運用するのではない。

吉崎誠 策定準備委員)

営利という考えもそうですけど、どういう視点を持って私たちができますと言っているの

かなってというのが、全然ここには見えてこなくて。ガイドを育成する場所の提供とか、講師を交流の家の事業の予算で持ちますっていうことだったら、話が違ってくると思うのですが。

ライヴス黒岩)

交流の家の事業と読める表現が問題ですね。

金城渉 策定準備委員)

交流の家が運営するのではなく、自分たちのノウハウを提供しようということ。

石川)

吉崎さん。ガイドについて、ちなみにどういう表現にした方がいいとかありますか。

吉崎誠 策定準備委員)

ガイドの育成に関してはもっと大きな事業になってくると思います。ダイビング協会とか各団体に関わるとか。今は渡嘉敷にはないですが、いろいろな協会や組合があると思うので、それらをどのように連携させていくかということだと思います。

花咲宏基 策定準備委員)

初めて、ガイド育成をやろうということで、ノウハウを持っている青少年交流の家にお聞きしながら作っていきこうという意味合いなのですが。何も無いところからではなくて、ノウハウを持っているところから、せつかく渡嘉敷に交流の家がありますので。ただ、運営するという誤解を与えない表現が必要です。

金城肇 策定準備委員) :

長くガイドとか、案内をやっている方が、実メンバーで、よしかず先生がいらっしゃいます。住民からさらに具体的に出てくれば、もっとバランスが取れます。

石川)

ありがとうございます。吉崎さん、他には。

吉崎誠 策定準備委員)

地域ブランディングの中の安全安心な観光、とても大事だと思います。ここにダイビング協会の方が来てくれているので、あまり厳しいことは言いたくないのですが、海の中のダイビングの事故に関しては、やっぱりダイビング専門の方の判断が的確だと思いますが、僕は、正直なところ、違う点で安全管理というのをやっています。海の中と海の上は全然

違うっていうことをまず明確に言っておきたいと思います。ダイビングができるからといって、普通に泳いでいる人がレスキューできるかといったらそうではないということ。専門的なところの意見も、ダイビングだけじゃなく入れておかないと。そこが、渡嘉敷に足りないところだと思います。沖縄県は、内地に比べると、年間を通してとても長い遊泳期間を持っていて、技術やレベル的に関して言えば、沖縄は、多分、全国で見ても低い方だと思います。ライフセービングっていう技術や意識、体力に関しても。さらに渡嘉敷に関しては沖縄県内の低いレベルの中の本当に下の方にいると僕は思っています。そういった意味でもうちょっと明確にしておかないと、今後も事故は増えるのではないかと思います。最後に、追加ではないのですが、パンフレットの制作と配布に関しても、考えたほうがいいのかと。費用対効果が低いという話もだいぶ出てきてはいるので。やっぱり何十万、もしくは百万単位のお金をかけて数パーセントの宣伝にしかならず、それがゴミになってしまうのだったら良くないと思います。

石川)

ありがとうございます。また1周回ったらみなさんに聞きます。金城さん、お願いします。

金城肇 策定準備委員)

番号で3-1-3。観光ルートの作り方がいいますか、その中身、ルートを掘り下げて欲しい。要するに、事業所とか展望台とか、そういったところがあると思うのですが、各集落には「ウタギー」だとか、「ムラガー」だとか、整備されていないから載せるのが難しいところではあると思うのですが、どうにかして、その奥深さを知ってもらいたい。ですから、案内板の整備も必要と思います。

石川)

それでは、国吉さん。

国吉晴大 策定準備委員)

まず、アンケート調査の結果のところ、気になるところがあります。観光客の増減傾向のところ、アンケートの結果では、観光客の方にもっと来て欲しい、やや減らすべきというところで、やや減らすべきっていうのが多いのですが。その後、事業者さんにとっては長期に関しては増やしていきたいと回答になっていた。ここで聞きたいのが、これは村民に対してのアンケート調査ということで間違いないですね。

ライヴス黒岩)

はい。

国吉晴大（策定準備委員）：じゃあ、このやや減らすべきっていうのは主に事業者さんっていうことですか。

ライヴス黒岩）
住民の方です。

国吉晴大（策定準備委員）
そうであるなら、住民の方々の外国人観光客に対する受け入れ体制について、まず村民の理解を得ることが大事だと思いました。その方法として、どういった手段を用いるべきかを考えないといけない。結局、自分たちが一生懸命頑張って計画を立てたところで村民が理解して共感を得られなかったら、やっている意味がなくなります。あともう一つ気になったところがありまして、外国人観光客のアンケートで気になったのが、不満があるという結果です。日本人観光客と外国人観光客の中で、外国人観光客の不満のパーセンテージが大きいと思います。不満の内容が知りたいのですが、その例とかをもらえますか。

ライヴス黒岩）
はい。わかりました。

国吉晴大（策定準備委員）
その不満を、冷静に分析すれば、島の取り組みが見えてくるのかなと思いました。

ライヴス黒岩）
先ほど1番初めに村民の方に知っていただくという話をしたのですが、体系の方で提案というか1-2-3番の方に渡嘉敷を考える定例会の実施を、前回の皆さまの意見を踏まえて入れさせていただいています。皆さまのこの取り組みを知っていただくということと、地元でどういう魅力があるのかというのを、実際、村民の皆さまに、観光客が来た時に案内していただくとか、必ずそういったことに遭遇すると思います。そういったことに対応いただけるために、定例会を入れさせていただきました。

石川）
それでは、池松さん、どうぞ。

池松来（策定準備委員）
30ページ以降に絞ります。32ページの基本的な取り組みの体系のところですが、「1」「2」「3」「4」とありますが順序を検討していただきたい。筆頭に上がっているのが、美化運動の実施なのですが、保全の方を優先したいので、例えば「3」「2」「1」「4」の順番に

入れ替えることはできますか。

元々の資料の2番の1、エコツーリズムの推進っていうところの、自然体験の場の提供というところを、例えば、良質なエコツアープログラムの開発という言葉に変えるのはどうですか。

それから、環境保全の推進の中の②、環境基準の共有というところで、本文の方で海水浴場の水質基準の記事が引用されている部分があるのですが、海水浴場の基準は、基本的に泳ぐことに支障がないとか、泳いで病気にならないというレベルで、そのレベルで調べても一番いいのがつくくらいのもので、むしろ調べないといけないことはどういう変化をしているのかって細かく調べないといけません。一番悪いのは50センチ以上視界が見える、から、1メートルくらいってというのが一番悪い。50センチ以上見えなければ、海水浴場として汚いってのが基準なので、その基準は、渡嘉敷には、そぐわないと思います。

吉崎誠 策定準備委員)

基本的に雨が降って、泥が流れている状態で、もし、その日が実施日になったとしても変更して実際は水質検査をやるはずなので。だから多分その水質の、その日にとったのが、一年間の水質基準なのかって言われたら、ちょっとそこは違うと思います。

池松来 策定準備委員)

調べなければならぬのは、もっと違う部分だと思っています。例えば、与論島だと思えますが、去年のサンゴの調査の時に使ったものとか、調べればいろいろあると思うのですが、そのあたりに合ったものがあると思っています。

次は、33 ページの最初のところの環境美化活動を行うとともに、各家庭内でごみの分別の徹底と自然環境への取り組みをしますとありますが、国立公園で環境を云々という時に目指すようなレベルじゃないかなと。もうちょっと高いレベルを目指すべきだと思っています。それから次の美化運動のところ、ビーチや街中で、ごみ拾いを行っていますが、できたら、漂着ごみとか放置されたごみがあるので、その責任の所在をはっきりとさせたい。自分が捨てたものでなくても、誰もが拾って回収できるような、今は拾っても、自分で分別して袋に入れなきゃ持って行ってもらえないので、お客さんでも村民でもビーチで拾ったゴミはどこかに置いておけば、適正に処理してもらえんというような仕組みが欲しい。それから、リサイクルですが、「正しいゴミの分別でリサイクルできる資源ゴミを回収し」とありますが、そもそも出てくるゴミの種類まで、こういったところで決めるというわけではないですけど、こういう方法でいきたいねということを示すのが素案じゃないかと思っています。例えばペットボトルを山ほど買い込んで、リサイクルすればOKなのかという問題とか。そもそも、村内で処理できないものを、リサイクルしているのであれば、減らす工夫がないといけないと思います。こういうことをこの素案として、我々が村民に発信していくべきことだと思います。

次に、34 ページで、2 番のところなのですが。例えばですね、エコツアーのプログラムを開発していくにあたって、村内の事業所が自信を持ってこういうのがありますよというのを優良プログラムとして認定するという形がいいのかどうかかわからないですけど。いわゆるお手本になるようなとか、そういった基準を設けるべきではと。

石川)

表彰制度のような。

池松来 策定準備委員)

そうですね。そういったようなものもあっていいのかなと思っています。

また、定例会の開催の実施とありますが、すべての人たちを対象にと書いてありますが、なかなかそういうことにはならないと思います。むしろ、これからできる観光協会なら、その人たちがテーマにあった人選をして、一部はテーマにあった人を集めて実施するというのも一つの考え方かなと思います。例えば、定例会で話すべきテーマがあるとしたら、事前にこういう形で課題を、定例会という一発勝負で話し合う仕組みではなくて、適材を集めて下地を作ってから話し合うような仕組みを作ってみてはどうかと思っています。

それから 35 ページですが。取り組みの 3 番に環境負荷の削減に向けて環境省や国立沖縄青少年交流の家等と連携を図りながらと書いていますが、交流の家という言葉、先ほど吉崎さんからも意見があったのですが、よく出てきますが、沖縄なら、琉球大学とか産学官の連携のプログラムだとかっていう風に広くアンテナを張って、広い発信の仕方をしてという方が正しい技術や視点が入るのではないかと思います。

それから、36 ページですが、外来種についてなんですけど。外来種の問題っていうのは、実は今ある外来種問題だけにとらわれるだけではなくて、さらに今から入ってくるものに対しても、慎重に気を配る姿勢が大事だと思っています。蔓延してからの対処の難しさというのは、渡嘉敷村は身をもって体感していますので、新規の外来種の輸入に関しても、厳しいルールを持つべきだと思っています。例えばペットと言われる範疇に関してもこういう場所では飼えませんよという考え方も必要じゃないかなと思っています。今、僕が話していることが、直接、この素案に載せるべきことかはわからないですが。ただ、こういう考え方を共有したいと話しています。

それから 37 ページの観光協会の設立ですが、この観光協会が、観光業の推進役になると思いますが、環境保全と観光の振興というのをセットで考えようとしたら、今、この記載を見ると、環境に関して何も書かれてない。観光協会は、リーダーシップをとる部署なので、環境保全の役割がありますよとか、ここに書いていただきたい。今後できる観光協会が、環境保全に対してもリーダーシップをとっていく姿勢を示して欲しい。

石川)

概念ということですか。

池松来 策定準備委員)

そうですね、素案には、時々言葉でも出てきていますが、観光協会に関して環境保全に対してリーダーシップをとるべき組織ですよっていうことを、振興計画にも載せていただきたい。

取り組みの 5 ですが、事業所の都合、取り組み、努力、モチベーションというか、観光振興計画に入れるものかという疑問がありました。ただ夏と冬の観光客数を平準化していけば、それなりに改善されるのではないかなと思ってはいます。6 は記載するなら、後継者問題に関して何らかの取り組みをすることになるかと思えます。外部からの人材募集とありますが、外部からの新規の人っていうよりも、移住者で、村内に長いこと住んでいて仕事をしながら独立している人とか、チャンスをなかなかつかめていない人とか、そういう人たちがいるので、そういった人材を活用することに注目して欲しいと思っています。

石川)

村内での人材活用。

池松来 策定準備委員)

そうですね。たとえば、居住年数で線引きをして、この年数以上住んでいる人たちの中から募集するとか。そういった工夫ができるのかなと思っています。

次に、45 ページの取り組み 4 ですが、地域ブランディングの構築に向けた取り組みのところですが、他との差別化というところですが、「差別化」を使うと他より優れた点という風にとらえがちだと思うのですが、あくまで、渡嘉敷の独自性っていうところが差別化のポイントではないかなと思っています。いずれ渡嘉敷のブランディングというよりは慶良間のブランディングになるとは思ってはいるのですが。その時に近隣の座間味と比べると、渡嘉敷はどうかっていうことになると思うのですが。良いところを競い合うという考え方よりは、独自のものということではないかと。「差別化」というよりは、「独自性」という言葉が入ったほうが、この文章を読む人がイメージしやすいと思います。

次に、47 ページのホームページの改定。これは結構重要な課題だと思っています。渡嘉敷村のホームページは、観光地、観光産業を、今から発展させようと考えているのに、比較的小さな地方自治体の村民がアクセスするホームページのように見えます。最初のページは、自然の良さとか、環境保全の取り組みだとか、トップに見えるようにして、住民の人はもう一回ボタンを押さないと、今のページにいけないとかでもいいと思います。例えば、村民が知るべきニュースを見に行くっていうのは、トップの次に潜ってもいいと思います。やはり、渡嘉敷に行ってみたいなと思う人が、最初にアクセスした時に知りたい情報、伝えたい情報が見つかるページ構成にして欲しいと思います。

48 ページの 2 番の観光関連イベントへの参加というのは、観光関連イベントと簡単に書いてありますが、今から話すことは振興計画に記載して欲しいということではないですが、読んだ人がイメージしやすい方法を工夫してほしいということでお話ししますが、今まで、毎年、いろいろなところのイベントに参加したと思いますが、それで観光客がどれくらい増加していたのかということと、最近国立公園になったという時にどんと増えた、インパクトの違いってかなり大きな差だと思います。どうも、今までのイベント参加は、ポイントがずれているのかもしれないなと思っています。例えば、離島とか沖縄とかがメインのテーマのイベントに、渡嘉敷が出て、同じように綺麗な写真を並べたブースが並んでいる中での渡嘉敷になります。もしかしたら、全く正反対の、山のイベントや外国の内陸にある海が全くないような国をターゲットにするとか、渡嘉敷の綺麗な海を一人で持って行って一人で見せたほうが、多分インパクトがあるのではないかと考えています。ただ単に誘客イベントに参加するというよりは、今までどおりのことではないことをどんどん考えて欲しいと思っています。

49 ページですが、交流活動の推進とあります。また、村内の一次産業事業者等の異業種交流を連携推進するとあるのですが、実は 700 人くらいしか住んでいない島で、むしろ一人で異業種をやっている人たちが山ほどいて、例えば那覇市内で、事業者の異業種の交流を促進しますってなったらどういうことをやるのかイメージできるんですけど、この島でそれをやるなら、もっと違う言葉があるのではないかと考えています。その関連で次のイベントを通じた他自治体の交流機会の創出ですが、これも渡嘉敷の独自性をあえて売りにした交流をするべきだと思っています。先ほどの正反対の場所というのもそうだし、それからもう一つは同じ目標を持って同じ方向を向いている、環境保全だとか、比較的、子どもが多い離島だとか、若者が働く場だとかありますけど、そんな同じような方向を向いているところを探して見つけて、交流するという姿勢が大事だと思っています。

50 ページの観光メニューの充実というところで目標値がメニュー数になっていて。

石川)

目標値のところは、次にお聞きします。

池松来 策定準備委員)

後は OK です。

石川)

池松さん、よろしいですか。それでは、中馬さん。

中馬直樹 策定準備委員)

なかなかこの会議に参加できず、うちの田中の方で参加させていただいておりました。

まず、37 ページの基本方針の 7 番、渡嘉敷村でのサービス整備状況の事前周知活動ですが、確かに周知することは大切ですが、もっと積極的に、設置するという考え方に持っていかなければいけないと思っております。例えば、別の会議で提案したのですが、両替機の設置だとか、県か金融機関にご協力いただいて外国人に対応するための両替機や ATM の設置を推進していくような前向きな計画を入れてもいいのかなと思います。

6 番の働く人材不足の解消に向けた取り組みとありますが、確かに事業所の皆さん、夏場忙しい中で人手が欲しいっていうのをよく聞きます。人を呼ぶのは良いですが、呼ぶにあたって住む場所がない。そもそも、住む場所を改善しないと、観光事業は発展しないと思います。その住む場所の提供が、従業員の住む場所だとか、先ほど池松さんの方からありましたように、例えば県外から呼ぶ方とかに対しても住む場所がないと、どうしても島全体としての観光が上がっていかないと思っています。続いて細かいところではありますが、事前に説明、体系図の方の話をさせていただいて、青色で変更はかかっていますが、素案の方でも変更をかけていただければと思います。

目標値とかは今からやると思うのですが、54 ページ以降も今から議論しますか。推進体制だとかも準備委員会の方で話し合っていく形ですか。

ライヴス黒岩)

意見をいただければありがたいです。

中馬直樹 策定準備委員)

推進体制は大切だと思います。目標は作るけど、実際、実施しなかった、実施されなかったというケースが、他の行政に多々あるかと思っています。それを防ぐためにどうするかを準備委員会で決めなくてはいけないと思います。準備委員会の設置要項がついていないので忘れていたのですが、どのタイミングで解散するのか、それともそのままチェック機能を果たしていくのかというところも今後検討する必要があるのかなと思っております。観光協会ありきで話は進めているかと思うのですが、観光協会に全部おんぶにだっこになるのか、それとも村民、事業者、団体でやってみようっていう計画だと思いますので、どういう風にやってみようっていうのをご提案いただければ、皆さんでもめるのかなと思っております。

花咲宏基 策定準備委員)

策定準備委員会、策定委員会の両方とも、振興計画を、村長に提案し了承されたところで、役割を終えるという形になります。

中馬直樹 策定準備委員)

わかりました。以上です。

石川)：それでは。長谷さん。

長谷和典 策定準備委員)

2点ほどお願いします。まず基本方針4のところの観光の取り組み2-3についてです。ルールとかマナーとか取り組みについてなんですが、これが地域ブランディングに入るべきなのか、1の自然環境保護に入るのか、ルールってブランディングではないような気がするのですが。

ライヴス黒岩)

こちらに入れた理由としては、観光客が来たときに、上半身裸でうろうろしているとか、そういった事象は街としての価値を下げますので、そういったルールを皆さんで守り、いわゆる景観の良い、雰囲気のある島にしていきたいと思いますという意味で、ブランディングの中に入れていきます。

長谷和典 策定準備委員)

わかりました。ぜんぜん問題ないです。

あともう1点。自然環境保全の1-2、エコツーリズム推進の1、自然体験の提供とあるのですが、これは運営協力の事業者が、交流の家さんになっていますが、これはあくまでも来た方に向けての幼児から大人までという発信の仕方でしょうか。

ライヴス黒岩)

そうです。

長谷和典 策定準備委員)

そうであるなら、今日たまたま島の方から声をかけられて、「今、海の中どうなの？」と、「今、山を見ていたらこう思うんだよね」という話を受けたのですが。現に、陸上を見ている分には、例えば自然が減っているとか、そういうことが目に見えてわかります。上から見たらやっぱり青い海なので綺麗に見えるのですが、中に入るとこのへんが全然なくなっているとか、増えている部分もちろんあるのですが、白化現象と言われることも入ってみたいとわからない。水温とかもどうなのかと、いろいろ聞かれました。「この碧100年先に」ということであれば、環境保全のところに、村民の方にももっと興味を持ってもらえるような何かがあった方が良くと思います。この記載だけなら、言い方が悪くてすいませんが、ごみを拾っているだけのように読めます。そうではなくて、この海を守るために、これをしなければならぬということに持っていけることが一番大事だと思います。村民に対して、インターネットで広報しても、おじい、おばあが、見れなかったりするのを、

回覧板とか、張り出しをして、みんながこの海を守ることに共感できる、何かを作れたら良いと思います。ごみを拾うだけでなく、意識レベルをもっと上げて、保全っていうことも取り組めたら良いと思います。ハード面っていうよりもソフト面になるんだと思います。そういうことも取り組んでいくべきじゃないかなと思います。

石川)

それでは、小嶺さんお願いします。

小嶺国土 策定準備委員)

内容がどこに所属するかわからないのですが、何箇所かにルールを設定して周知するとあります。その場合、それに抵触している場合どうするのかっていうことが、課題としてあるかと思います。

ライヴス黒岩)

例えば違反した人に対してということですね。

小嶺国土 策定準備委員)

そうですね。先日の委員会でもありましたが、船で水中銃やモリを持っている人がいて、船舶課としては、船内の秩序、安全を守るために乗船する際に預かりますが、下船の時に返します。ただ、それはビーチとかで使用してはダメだと思います。そういう時にどこに確認すればいいのだろうとの話になりました。本当にそれが禁止事項なのか、渡嘉敷村として禁止事項にするべきなのか、それともお願いとして周知するべきなのかということをお話し合う場が必要ではないかと思います。

また、観光ガイドの育成の話ですが、育成された方はどこかに所属していてお客様がお願いするとガイドをしてくれるということですか。

池松来 策定準備委員)

たぶんそうです。よく知っている人なら誰でも案内はできると思います。資格云々ある人ない人がいて、資格なんかないけどすごく詳しい人もいます。ただ、ガイドがガイドであるのは、例えば何処かに所属していて、自分のお客さんに対して安全管理からもし事故が起きた時の責任まで負いますよっていうのが、資格を持っているガイドだと思います。例えばそれをカバーする保険に入れるのってっていうのは、そういう仕組みを説明できることを含めて、ガイドの育成っていうことだと僕は思います。

石川)

それが連動している部署ということですね。吉崎さんがおっしゃっていた。

吉崎誠 策定準備委員)

保険が適用なのか、適用じゃないのか。変な話、日帰りの保険なんか包括でいくらでも入れはするのですが、それ以外に大きな事故が起こった時の賠償責任だったり、そういう保証とか、そういうのがちゃんと入れるための資格になってくるので。資格は交流の家を使ってやっていくのか、それとも村としてもっと大きなちゃんとしたものを使って作っていくのかっていうのは違ってくると思います。どういうガイドか、海の中なのか陸なのか、観光案内なのかっていうので色々変わってきます。

石川)

入り口は例えば京都検定みたいな。

池松来 策定準備委員)

グレードはいろいろあります。

吉崎誠 策定準備委員) : いろいろなガイドに向けてのレベルを上げていこうっていう意味も含めたガイドの育成だと思うので。同じことを同じように繰り返していくのではなく、外からの意見だったり、新しい知識だったり、そういったことを入れていくことによって、レベルが上がっていけば、村の観光ガイドのレベルも上がっていくっていうのが、最初にあったんじゃないかなと個人的に思っています。

小嶺国土 策定準備委員)

今、質問した趣旨というのが、このあいだ、肇さんに質問代わってもらった件があったじゃないですか。お客さんが、ずっと沿道で見た花の名前が知りたいっていう話をしていたのですが、船舶課の職員では分からなかったのですが、肇さんがいらっしゃったのでお聞きしたら解決をしました。肇さんのように、村のことにいろいろと答えられる人も観光ガイドとするのかと。

金城肇 策定準備委員)

ガイドのとらえ方ですが、営業につなげていく人という側面もありますが、まずは村民全体で自然について学んでもらい、それを生かして、観光客にガイドできるようにできればと思います。ガイドだけじゃなくて村民全体で勉強してチェック機能を持つっていうことにつながると思います。それが、営業に結びつけていきます。まずは、ガイドというのは広い意味で、どういうものかの勉強会みたいなものがあるべきだと思います。まずは、みんな勉強しよう、渡嘉敷の視点で勉強しようということができればと。一つの意見ですが。

小嶺国土 策定準備委員)

今の話の内容が、この観光ガイドの育成という項目の中には含まれていますか。

花咲宏基 策定準備委員)

観光客の視点からすると、お金を払ってもガイドして欲しいという方もいらっしゃると思いますし、沿道の花が知りたいというと答えてくださる。お金は払わないけれども。その状況をカバーできれば満足される。

そういったことを想定しています。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

ガイドというのは基本的には業としている方々のことを言っていると思います。商売ですね。案内をして収益を上げていくというガイドがいて、道端の花の名前を聞くとかっているのは、村民誰もが知っていたら答えられるレベル、誰でもいいってことですよね。県で言われている「ウェルカムんちゅ」であろうという提示されているのがあって、島には島の独特の文化がありますので、それを答えられるだけの住民たちがいて、プラスしてガイドがいるという感覚の方がいいかなと思います。

石川)

最初のマナールールのところについては。

花咲宏基 策定準備委員)

おそらく罰則規定を設けるとなると、条例という形になると思います。村民の方、観光事業者の方からそこまでやるべきだっていう声が出た時には、そういう動きが始まると思います。まずは、マナー的なところからなるのではないかと思います。いまいま、罰則含め条例を作って欲しいということがあるのであれば、今日の中で話していただいていた方がいいと思います。

小嶺国土 策定準備委員)

限定して、水中銃とかモリに関していうと、水産という話ですよ。

花咲宏基 策定準備委員)

今のルールで行くと、例えば、モリをもって魚を取ると漁業組合の方からの指摘になるのですか。

国吉晴大 策定準備委員)

実際は、ビーチと港の中に関しては、漁業監視区域外です。だから、誰が、何をやっても、

治外法権じゃないですが、ルールもない。それを守るとしたら村条例しかない。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

海岸に関しては、水中銃とか発射する装置がついているものは、海岸管理条例の中で禁止されています。使うことはだめです。基本的に、漁業をすること自体が禁止されています。ただし、持ち込むことを規制するのは難しいです。

国吉晴大 策定準備委員)

ただ、今の話で聞きたいのですが、僕たちが監視員の仕事をしていた時に、ビーチ、遊泳区域とは違う左側の方で投げ釣りをしている人がいました。それに対して、やめてもらえますかって言ったら、どこにそういうルールがあるのって言われて。そのことについて僕が役場に電話問い合わせした時の回答が、ビーチはあくまで遊泳監視区域だから、そういうものを注意しないで欲しいと言われた。そこをはっきり、ダメならダメで公表してもらわないと、僕たち村民として注意したとしても何もできない、対応できない。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

基本的に釣りで禁止されているのは、撒き餌でとる行為だけです。

人がいるビーチ、人がいないビーチ、常識で考えると海水浴場の中では釣りしてはいけないというのは常識的にはわかるのですが。ただ注意されてからやめるかどうかというのは、本人の意識の問題もあるので。何の根拠があるのかって聞かれると答えづらいことになってきます。

国吉晴大 策定準備委員)

それを条例で禁止することは無理ですか。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

条例化できる可能性はあります。ただ、渡嘉敷ビーチとか、限定してやると結局シーズンとかがありますよね。人がいない時に釣りしちゃいけないのかっていう話になってくるし、ルアー釣り。細かいところまで。

吉崎誠 策定準備委員)

遊泳区域の申請をしていますよね。ここの中は、遊泳区域ですよ、安全を確保しなければなりませんと。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

今は、遊泳区域外の話です。

国吉晴大 策定準備委員)

区域じゃなくて、監視区域らしいです。

吉崎誠 策定準備委員)

阿波連にはってあるビーチのブイは海水浴場として申請していると思います。だから、あの中でやっていることに関しては注意ができるけれども、それ以外のところに関して、動いている人に関しては、今言ったみたいにルアー投げとかに関しては、間違いなくこれは規制できるものではない。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

こういったルールを設けるかっていう話になってくるので、一つ一つ議論していると、観光振興計画の話をする時間がないので。

長谷和典 策定準備委員)

国吉さんが言ったように、今テレビでも、渡嘉敷島は、透明度が良いから釣りをしながらシュノーケルするっていうのも当たり前になっているし、シーカヤックしながらトロリーングしている人も見るし、やはり、ルールが無茶苦茶なところがあるので、もしこの場でこういうルール、村としてこういうのをやっちゃいけないっていうルール、というふうにうたえるチャンスがあると思いますので、今、でてきた話で、うたえることができるなら、その辺は考えるべきだと思います。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

即答できるものではないので。

国吉晴大 策定準備委員)

モラルに関して、やってはいけないと誰もが思うようなことに関しては、やらないでと強く言って欲しいです。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

お願いになるのか、規制になるのかは、はっきりいえないところでもあるので、持ち帰らせてください。

小嶺国土 策定準備委員)

自分が質問したのも、この間、質問したのもそうなのですが、例えば、計画の策定中にそういうことを話し合えると思います。一方で、一方ではこれは禁止すべき事項だと思った

としても、もう一方の方では、なんで制限されなきゃいけないんだっていう人も出てきますから、それは関係者の人たちで話し合っ村として禁止するのでしょうか、どこで話し合うのでしょうか。

花咲宏基 策定準備委員)

それについては、ルールに関して書いてあるところの主幹課に、村民の方が話を持って行って具体的に進めていくっていう形にはなると思います。

小嶺国土 策定準備委員)

これを見ていて担当が商工観光課になっていますが、漁業とかが絡んでくると商工観光課ではない。例えば、観光協会にその部分を担わして、一旦、観光協会が受けますよっていう話にしていかないと、観光業の人たちがこれしかないと思っても、そうじゃない人たちがいるかもしれないから。それでいきなりルール作りっていうのも不安という話なので。どうしてもこういう話は出てくると思います。

吉崎誠 策定準備委員)

モリ・銃と釣りを一緒にするのは違うと思います。

漁業権という話になるのであれば、規制が必要。モリを持っている人を見ますが、やめてくださいと注意もしています。ひどい人には、警察、駐在さん呼びますという話もしています。正直、見つけたら、事務所とかで預かっておいて、帰るときに返すとか。やっぱりあったら使いたくなるだろうし、どういう状況かわからないですけど子どもの足に刺さったという話も聞いたことがありますし。それが例えば全然知らない人に突いてしまったとか、打ってしまったとかなると、もっと大きな問題になってきます。

花咲宏基 策定準備委員)

今、話が出てきているように、もっと深く議論をしなければいけないところだと思うので、こちらの方にルール化について書いて、主幹課があるということで考えると、ここに載せるという道筋はできたということで考えていければと思います。

小嶺国土 策定準備委員)

はい。ありがとうございます。

石川)

今それに対応する項目はある状態ですか。

花咲宏基 策定準備委員)

地域ブランディングの2番のマナー、項目が増えたりするようルール化するのか、警鐘を鳴らすのか、というところで。

池松来 策定準備委員)

新項目の中にはルールを入れていくのか。

例えば規制するという言葉がダメならば、ルール作りをしますっていう言葉にとどめるのか。

花咲宏基 策定準備委員)

観光振興計画という意味合いでいくと、今おっしゃっていた規制をかけていくという部分でいうとそぐわない面が出てくるのではないかと思います。観光振興計画の中に、環境保全を入れていくのは渡嘉敷らしくて良いと思いますが、罰則規定を含めて入れていくっていうのは、また別の話になってくるのではないかなと思います。そこは、ジレンマですが。そこで、ルール作りという形にしています。

池松来 策定準備委員)

ルール作りを進めるということがこの中に入っているということですね。

チェック機能とかの中に、ルール化されるのかとか、できてないじゃないのかとか、そのあとのチェック機能の中に任されるっていうことで良いですか。

石川)

先ほど中馬さんがおっしゃったように、PDCA サイクルを運営していくチームでチェックしていく。

花咲宏基 策定準備委員)

今まさにモリの問題で議論がありましたが、観光協会ができた後に、それをどのように扱うかは、観光協会、商工観光課、漁業組合含めて議論するところだと思います。話し合いが持てる一つのきっかけになっていると思います。

石川)

それでは、金城渉さん。

金城渉 策定準備委員)

観光ガイドは大事だと思います。僕の事例で出したいと思いますが、直近の事例で、海外にプロデュースすることがありました。エージェントも、先方も、うちのオプションでレジャーガイド付きのツアーも冬場はあるよと。それを売り込んで、プロデュースしてくれ

ると。その際、エージェンツからも先方さんからも、有資格者がいるのかと。有償になった場合には、有資格者が必要だという宿題をもらった。有償化するには今の時代どうしても資格者が必要になります。JTBさんの方にも現状を聞きたい。どうですか。

JTB 池原)

旅行業法も地域の方々相手に緩和されつつありますし、そういった意味であれば地域の方々の仕事となって出た旅行業というのがありますし、そういった資格の取得っていうのは増えています。また、観光協会とかが担っていく部分もあると思います。そういった意味でも、観光協会という推進組織が必要ではないかと思います。

金城 渉 策定準備委員)

有償化するエージェンツの方からも、やはり有資格者が必要と言われるし、そうじゃないとお金を取れない。

JTB 池原)

資格を持っているからこそ、観光客もお金を払います。

金城 渉 策定準備委員)

そういう意味で資格者を増やそうと。いまダイバーばかり資格者でお金をもらっていますよね。それを地元の観光資源も活用して案内できる有資格者を増やそうということです。それなら、わざわざ本土や内地で研修をするよりは、島の中でノウハウ持っているところを貸してもらって、島内で資格者を育成する。交流の家は、文科省の管轄で、ノウハウを持っています。交流の家をうまく活用して、なるべく資格者を増やしていこうと。それは、国立公園全体通して、座間味の方にも来てもらって、同じレベルの国立公園全体で同じ資格者をとって、営業をしたいということが、僕らにはあります。それで、有資格者を増やさないといけないと考えています。であるなら、地元にあるものをなるべく使おうと。そういう発想で、交流の家という名前が出てきたのかもしれない。まあ、僕が提案したのもあるかもしれないけれど。

あとは、先ほど、小嶺課長がおっしゃったように、普段の教育体制もあるかもしれませんが、皆さんが意識を持てば、いままでの経験や知識、自然で、資格者のレベルがあるけれども、ツアーの中に組み込まれて、知的財産が金に変わるっていうのも、資格を持てればこそ、始まることなので。

JTB 池原)

資格を持って受け入れる団体がいるということで担保されると思います。

金城渉 策定準備委員)

知識が金に変わるという、そういう方法をつくるのも、僕たちの仕事なのかなと思います。もう一つは、何回か質問していますが、観光振興推進計画の中で出てくる観光協会ですが、なかなか、具体的な立ち上げる時間的なものが出てこない。いつになったら出てくるのか。今、ビューロー、沖縄県、海外エージェントからのいろいろな観光に関する話は、商工観光課に来ていると思いますが、観光協会が無いので、それをそのまま、商工会に丸投げしている感じがします。

その商工会がですが、商工会の定款の中に、今やっている業務はそれに抵触しないのか。僕の中では、商工会の役割ってというのは、ちょっと違うのではないかと。定款に抵触しない中で業務をしているのか。例えば、受け入れている人材が、会計監査が入ったとしても、抵触しない範囲内で業務をしているのか。僕の感覚でいうと抵触すると思うことが多々あります。それを早めに、観光協会を立ち上げて移さないと、投げた責任を取らされる。商工会の定款を見ていないので、僕の憶測になりますが、定款に抵触しないのか、中馬さんどうですか。

中馬直樹 策定準備委員)

私も定款が頭に全部入っているかといえばそうではないのですが、そもそも商工会法の中に大きく二つありまして。地域振興と経営改善とあります。そこで、地域振興で考えた場合には、抵触しないと思います。大きなくくりで、おそらくやられていると思います。通常の会社の定款と個人でいう約款があると思うのですが、こういった業種をやります、宿泊業をやります、飲食業をやります、という形で法人はやられていると思うのですが。今後のために、いろいろなこと、事業所の方は書いてあると思いますが、それ以外に事業をやる場合は新しく作りかえましょうと、私たちもちろん指導しています。それが書いていない時はもちろんその業務はできませんので。私たち商工会の方で言えば恐らく、地域振興という大きな枠組みで考えていると思います。

金城渉 策定準備委員)

そこですよ。公正公平な立場で受けている部分と商工会という会員の中でのくくりの業務が、そこに一つギャップがあります。商工会に入っていない事業者は蚊帳の外で、何の情報も資料も入ってこない。僕は那覇で法人税を払っているけれど、事業所は、渡嘉敷にあるので、事業税は毎年5万円払っています。利益が出ればそれに加算されます。僕らは税金を払って事業をしています。商工会に入っていなかったら、こんな情報、仕事が入って来ない。完全に蚊帳の外です。そこは、もう一度、定款を確認して、会計監査を入れて、基本は3名人員ですね。

中馬直樹 策定準備委員)

会計監査を入れてというのはどういう意味でしょうか。沖縄県の監査も入っております。

金城渉 策定準備委員)

こういう業務が外から入ってきたら、僕は不信感があります。商工会に入っていなかったら蚊帳の外。まったく情報がない。他人行儀、いわゆるよそ者と言われる。那覇に行くところんな仕事を投げたよという話がいっぱいあります。本来、役場が公平中立の立場の仕事を投げている、受けた側は商工会なので、商工会の会員に対して業務をしていますよということに不信を持っています。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

そのためにできるだけ早く観光協会を立ち上げたい。観光協会を立ち上げると、観光関連事業者の方が入会してもらえることになります。観光協会に加入している人に情報を渡すということになると思うので。それは今の商工会と変わらないと思います。

金城渉 策定準備委員)

僕は商工会入っていないから、何の情報も入ってこない。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

それは、島の構成員であれば、商工会に入っていていただくと。それも一つの道かなと思いますけども。

金城渉 策定準備委員)

会計監査に問題があるなら、僕は会計監査を入れてきちっと分けた方がいいと思います。

中馬直樹 策定準備委員)

どこの組織もそうだと思いますが、会員以外に情報を発信するというのはなかなかないのではないかと。今では、確かにインターネットもありますが、商工会は地域の商工事業者、おじいちゃん、おばあちゃんまで見ますので、全部に発信するとなると、郵便しかないです。他のものについては商工会云々というよりも、中小企業庁の情報をもとに施策だとか補助金だとかは流してはいます。あと、私は情報を受けていませんということであれば、商工会に来ていただいて、こういったことを考えているけどないですかというのは、考えられないでしょうか。

金城渉 策定準備委員)

考えられません。なぜかということ、そもそも、そちらは商工会の業務の話をしているけれど、僕が言っているのは、対外的に観光業務に関して、本来は公正中立な役場に来てい

るわけですよ。それをそのままそっくり流している。当たり前のように、渡嘉敷村の慣習として。本来、僕たちは公平に得られる情報が、商工会に丸投げしているものだから、商工会の業務の情報になっている。本来は、全ての宿泊業者、観光業者に流すものですが、渡嘉敷の慣習として、今までの流れで、商工会に丸投げしているので、商工会の会員のみになっています。おっしゃったように、商工会は、正しい。商工会のメンバーの中での業務だから。

中馬直樹 策定準備委員)

私が把握していないのかもしれないですが、役場の商工会に投げている業務っていうのは何のことを言っているのでしょうか。

金城渉 策定準備委員)

あらゆるもの。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

すべて商工会に委託しているわけではありません。

金城渉 策定準備委員)

渡嘉敷には宿泊施設がありますよね。ビューロでは、僕らがやっている業態を薦めるといいうシステムがあります。幅広く民宿さんも。セールしたとのことですが、全く情報が無かった。事後報告になった。この間この話しましたが、どこで流れたが止まったかわからないけれど。そういったことが多々ある。今年でも3件あります。渡嘉敷の特徴として、商工会に業務が流れているから、僕は商工会じゃないから多分情報が来なかったのかなど。

中馬直樹 策定準備委員)

それは違いますね。ビューローの関係で言えば、すべてのビューローが役場なり商工会に情報を落とすかといったら、落としてはいないと思います。こちらに会員数名いらっしゃいますけれども、会員もそういった情報が入っているのかといったら、入っていないと思いますし。基本的には商工会が会員に対し、仕事を振るっていうのはないですね。

金城渉 策定準備委員)

仕事を振るのではなくて、こういうキャラバンとか、営業があるとか、商工会は、情報を出しましたか。向こう側は、渡嘉敷村には、イベントとか海外取引についての情報だとかを出している。金城さんの所からは上がって来ないですが参加しないのと言われた。最近の話です。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

個々のケースになるとなかなか整理できないので、そういったことであればすべての情報が行き届くのかって言ったら、なかなかわからない部分があります。

金城渉 策定準備委員)

話を戻すと、観光協会があると仮定して、投げて来た業務を、村内では当たり前のように商工会に流す。その時に、例えば、みなさんの人件費や経費は公金です。

本来、商工会の経費は、商工会の定款の範囲内での業務に限っての経費ですが。

役場から投げられた業務を、本来の業務以外で、渡嘉敷の慣習で行っていますが、それが会計監査にかからないのかと思います。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

会計監査にかかわる、かからないとかの話はここで議論しても結論が出ません。今は、観光振興計画をつくっている中で、商工会とは、いろいろかかわりが出てくるかもしれません。

金城渉 策定準備委員)

だから、早めに観光協会というのを。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

結論はそこでよかったですよね。観光協会を早く立ち上げる努力を、私もしますので。

金城渉 策定準備委員)

この件は、毎回毎回質問しているのですが。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

お伝えしているとおりに、観光振興計画ができてということで、今もうできつつあります。並行して、観光協会を設立するための情報収集をライヴスが行っているんで、それをまとめてから始めたいと思います。

金城渉 策定準備委員)

この組織がないがゆえに、うちの営業に弊害を与えている事実がもうすでにおこっているんですよ。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

そういう影響が出ないように早めに対応します。

金城渉 策定準備委員)

それを、早めに出してもらわんと。この推進計画の最後の 55 ページ。これに書いているけれども。こういう具体的な案を出さないと。これは特に損します。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

観光協会自体は、受益者たちの集まりになりますので、事業者で、どういった事業を行うかは詳細を決めてもらいますが、設立までの段取りとかを役場のほうで進めていくという段階で、情報収集とか資料を集めている段階なので、もう少し待っていただけないでしょうか。

花咲宏基 策定準備委員)

今、弊社の方で、全国ならびに沖縄県内において、どのような形で観光協会を設立しているかというのを情報収集しておりますが、もう集まりつつあります。私どもの方で、情報収集をやらせていただいたあとに、もうこの素案がほぼ出来上がっておりますので、なるべく早く皆さんにお話できたらと思っています。

金城渉 策定準備委員)

補足ですけど、勘違いしてもらいたくないのですが、構成員は誰でもいいんですよ。基本的な組織体、商工会とかは全く別組織で、ガイドも、それを早めに商工会と分けて、もちろん役員とかオーバーラップするところはあるかと思いますが。一般的には頭を村長にしますよね。

花咲宏基 策定準備委員)

例えば、国頭村は、元商工会会長がなられたりとか。

金城渉 策定準備委員)

一般的にはですよ。誰でもいいんですよ。

ただ、僕らがここで事業費を収めているので、その範囲で組織体を早く作って欲しい。役員は誰でもいいんですよ。僕が、やんやん言っているのは、勘違いしないで欲しい。役員の難儀な仕事はやりたくないんですよ。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

私自身も早く観光協会を設立したいというのがありますけど、素案を仕上げ、並行して、進めていますので、ご理解していただきたい。

金城渉 策定準備委員)

早めに日程は出してください。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

わかりました。

石川)

それでは、委員長からどうぞ。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

私の方からですが。基本理念を変更していますが、違和感があります。同じ言葉が重なっているようなところがあるのかなと。

皆さん、読んでみてどうですか。違和感がありませんか。

指摘したいのは、住民も観光客も一緒になって、大切に守り生かすとありますよね。その下の部分に渡嘉敷は、自然を守り活かす場所とある。言葉が重なっていて、読んでいて違和感がありました。

もっと省略化できるかなと思います。下の自然を大切に守り活かす場所というのを活かすのであれば、上の部分の大切に守り活かすはない方が、まだ響きはいいのかなと。住民も観光客も一緒になって 100 年先につないでいきます、にした方が下の自然を大切に守り活かすっていうのが生きてくると思います。皆さんはどうなのかなと。それと、上から二行目。青く輝く海、緑あふれる山、とありますよね。それと下から三行目。一度訪れた人が何度でも来なくなる、楽しみがあふれる場所、とありますが。あふれるっていうのがあるので。

ライヴス黒岩)

ちょっと別な表現を考えます。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

この違和感が私だけだったら変更は必要ないかと。この「何度でも」という言葉も、どうかと。何度という言葉でなく、「また」という言葉に変えたら、柔らかくならないかなと。「何度」という言葉の方がいいですか。

ライヴス黒岩)

リピートとの意味で、「また」が一回で終わってしまうよりは、何回も来ていただくというニュアンスで選びました。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

「また」は永遠に続くというイメージがあります。

ライヴス黒岩)

「また」でもいいのかなど。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

自分の意見なのですが。楽しみがあふれるっていう言葉は、あんまり響かないのかなと。そこも、時がゆっくり流れる場所っていうのも、時間とか空間を楽しみに来ているというイメージが強いので。そういった言葉はどうなのかなと、皆さんに提議したいと思っております。私は以上です。

石川)

はい。ありがとうございます。時間が迫っていますが、一緒に 50 ページと 51 ページの部分について、素案のところでは目標値の部分である程度の項目をライヴスから上げているのですが、ここの考え方とかみなさんが見てこういう考え方もあるよとか、最初に池松さんにお話ししたいのですが、考え方とか、こういう項目、例えばガイドの人数とか、例えばそれを入れてほしいとか、アイデアなので、あれば皆さんからいただきたいなど。まずは池松さんから提案をお願いします。

池松来 策定準備委員)

最初のところの 1 の環境水質基準とありますけど。海水浴場は、その土地、土地で、具体的な項目がわかっているわけではないのですが。

ライヴス黒岩)

環境面の基準は入れたほうがいいのかと思いますが。

池松来 策定準備委員)

例えば、サンゴ礁生態系保全行動計画というのが、環境省から新しくなったものが出てくるので、そこから目標値を出すとか。サンゴを守るために必要なのは、悪影響があるのはこれですとか、そういうのが出ていたので。そこを使って欲しいなど。水温とかになるとコントロール出来ないの。あくまでも自分たちの行動でコントロールできるものとしないと、地球温暖化みたいなことになるとダメなので。

ライヴス草間)

その基準については環境省さんにアドバイスをいただくことになっています。

池松来 策定準備委員)

あとは、観光メニューの数というのが目標値に上がっていますが。

ライヴス黒岩)

指標として。

池松来 策定準備委員)：そうですね。数だったらいくらでも。

石川) 国頭にはありますが。

池松来 策定準備委員)

数って言う前に、例えばこういう基準をクリアしているメニューの数とか、クオリティの担保があればいいのかなと思います。例えば、サンゴの上をいっぱい歩いてどこかに行ってみようというメニューが数えられても困るでしょう。それはある基準があって、ある基準を満たしたメニューが増えましたっていうならすごく評価できますが。

花咲宏基 策定準備委員)

これは、目標を数値化して、全員で共有して、その目標を達成しようというもののなのですが、基準が曖昧なままのものをここに入れることはできないと思います。これ自体を削除するという形になると思います。それよりもベターというか、まずはメニューを増やして質を上げていくことに関しては、その次という考え方とか。その質を、誰が審査するのかという問題が出てきますよね。現実的なところでいうとこれは削除してしまうか、数で数値化するかの選択だと思っています。

池松来 策定準備委員)

例えば、渡嘉敷村を訪れる観光客が楽しんでいただける観光メニューと書いてあるのですが。ここでは、「楽しんでもらう」という基準を入れていますよね。ということは、この文章を工夫すれば、今言ったようなことは可能なのではないかと思います。楽しんでいただけるっていうのは一つの基準だと思うので。そこに工夫ができればいいなど。

あと、ちょっと質問なのですが、5番の観光客数の数字の出し方ですが、これは入域数ですよ。

ライヴス黒岩)

これは去年の入域数です。観光客以外もカウントしている数字になっています。

池松来 策定準備委員)

入域数ということは、環境協力税から数えているのですか、それとも、運搬人数から数えているのですか。ナガンヌ島へ上陸する人と、離島割引での移動も含んでいるということですよ。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

島発ははずしています。

池松来 策定準備委員)

島発ははずしている。ナガンヌ島は入っていますか。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

ナガンヌ島は入っている。渡嘉敷村は、村に入域したという捉え方をするので。沖縄本島からここに来た方っていう捉え方をしてもらいたい。観光客という考え方。

池松来 策定準備委員)

気になって調べて、島発の人数がどんなものかなって調べてみたら、毎年だいたい1万2千人くらい。

小嶺哲雄 準備委員会委員長) 1万人くらい。

池松来 策定準備委員)

これは観光客の増減にあまり関係なく、ほぼここ数年は一定みたいなので、だからあんまり影響してない。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

それも数字からとってありますので。

池松来 策定準備委員)

ただ、どの数字からは共通理解があるかなと。ナガンヌが入っているのだったら、ナガンヌがどのくらいいるのかなとか。把握しておかないとだめかなと思います。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

みつしま、JTBさんの分も入っています。数字には。

花咲宏基 策定準備委員) 観光客数ではない。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

入域者数ですね。観光客がどこまでっていうのはなかなか判別出来ないのです。入域している数で。

池松来 策定準備委員)

工事のために来ている人、事業を行いに来ている人も、入っているということですね。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

入っています。交流の家の研修生とかも入っています。

花咲宏基 策定準備委員)

たとえばこれからも村のほうで、環境協力税の支払でカウントして、観光客数を把握するとかの方法はあるのですか。

小嶺国土 策定準備委員)

環境協力税だと、村民も、事業者も、交流の家の研修生も入っていますので、観光客数は把握できません。観光客数だけを捉えることは難しい。

花咲宏基 策定準備委員)

それでは、5番のところは観光客数ではなくて入域者数ですね。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

入域者数です。

池松来 策定準備委員)

それで、何と何を含むとか注釈が入っている方が共通理解がしやすい。

小嶺国土 策定準備委員)

観光で来ている往復のお客さんと、公共事業で工事しにきている人が同じカテゴリーでカウントされています。分けられるのは、渡嘉敷島から出ている人は、基本離島住民割引を使うので、別のルートで数字を出せますが、島に住んでいる人でも、カードを持っていない人は一般往復になりますので、かなり観光客に限定して数字を拾うというのは難しいことかなと。

国吉晴大 策定準備委員)

今話していることに便乗して、僕も質問していいですか。5番のところで観光客数っていう数字のところで、宿泊者数で分けられるのだったら、日本人と外国人で分けられるといいなと思ったのですが、今話を聞くとダメってことですよね。

小嶺国土 策定準備委員)

外国人のものに関しては、申込書に、ナショナルリティーを記入するので書いてくれる人の集計はできます。ただ全部の外国人が書くわけではないです。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

書いている人だけの集計となりますね。

小嶺国土 策定準備委員)

カウントした数字を報告するっている形で、それは使っています。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

船舶課の方々には難儀をしてもらって、集計してもらっています。50カ国くらいあるんですよ。それをまとめて商工観光課でデータを作っています。

花咲宏基 策定準備委員)

それも任意なので、正確ということではないと。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

国が正確なのかというの。なかなか正確ではない部分がありますね。

ライヴス黒岩)

できれば、外国人をカウントできる数値を入れてもいいのかなと思います。

花咲宏基 策定準備委員)

そうですね。こちらの5番の調査報告のところに、船舶課による集計っていうのを入れることができますので、それは可能だと思います。

国吉晴大 策定準備委員)

もし、そうならば入れておいた方が、データとしては必要になる時がでてくるはず。

池松来 策定準備委員)

あと、宿泊日数とかのデータをとる方法っていうのはあるのですか。長期滞在とか目標に

入っていますよね。しかしながら、数字拾えない、仕組みがない。目標は、現状を知って目標立てて、方法を考えるべきだと思うので。イメージだけで、日帰りが減らしたい、連泊が減った、長期滞在が欲しいなっていう言葉は出てきても、宿泊日数をカウントできる仕組みがないといけないのではないかな。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

その件ですが、船舶課の方で発券しますが、発券した時に、日にちを打つじゃないですか。それで今日買って明日帰りを買ったら一泊、っていうデータがとれるかですね。入った時と帰るときのデータをとれるかっていうのを確認したいですね。

花咲宏基 策定準備委員)

将来的にはあっていいと、今あるデータに対しての目標値となりますので。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

現在、そのデータはないですからね。

小嶺国土 策定準備委員)

この目標値についてですけど、現状値は現状値で今入っている数字を入れて、目標値は例えば何人増やしたい、1万人増やしたいだったら、単純にこの数字の1万人足した数値を入れてもらうって良いと思います、船舶課の担当から申し上げますと、具体的にどういう情報が欲しいのかを知りたいのですが。往復で買っている人で、日付が今日でない人は宿泊っていうデータであれば提供できますし、それを観光協会にフィードバックして、皆さんに共有することも可能です。今、船舶予約の空いている席を広報しているじゃないですか。予約システムに入ったら、ここは空いているとか。それ以外にもそういう情報を発信していけると、宿泊施設や観光施設をやっている人は、具体的にどういう人が入ってきて出ていっているのかがわかると、有効な情報になります。ただ、どうしてもうちは船舶の都合でシステムを構築しているので、言われなくても必要がないものはカウントしません。今、入域の話になっていますが、入域客のホテルについては特に船舶管理の運営に必要がない。売上金額とかだけ必要になってくる。ただそのような情報が入ってくるシステムがあれば、ついでにこういうシステムにしてしまえばという話になってきますから。外国人のそういう話があったので、今はデータに国籍を入れてもらおうっていう話で始めていますが、予約システムも、今は国籍が入るようになっていきます。ただ必須項目にするかという話が出てくると、いろいろな障害が出てきます。ただ今後の話としていいとは思いますが。

国吉晴大 策定準備委員)

それでは、システムを作る時にこういうデータが欲しいって言ってもらえれば、一括で作

っちゃうから楽だよってということですか。

小嶺国土 策定準備委員)

いやそういうことではなくて、船舶課としてシステムを作るので、船舶の運航っていうのが基準です。だけど、どうせ作るのだったら、できる範囲で想定して同じ予算でできるのだったらっていう話でできますけど。今は何の情報もないので、船舶課の都合で作っているっていうこと感じですね。情報は持っています。片道券が何枚売れたとか。それは観光にいかされる形では管理されてないっていう。

ライヴス黒岩)

そうですね。基準を作ってそれで管理をしていただければ。そういう宿泊の基準として。

小嶺国土 策定準備委員)

そうなってくると、どこからかそういう話があった方がやりやすいのですよ。基本的には船舶課としては、船舶の運航に限定された権限になりますから、どこからか依頼がない限りは…。

金城渉 策定準備委員)

こういう委員会で…。

小嶺国土 策定準備委員)

こういう意見の場があると、フィードバックしやすいですから。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

手作業は難しいのでシステムを入れる時に話はしています。

金城渉 策定準備委員)

エクセルですか。

小嶺国土 策定準備委員)

エクセルでさせるかどうかの設定をするかどうかなので。

中馬直樹 策定準備委員)

よろしいですか。数値的のもので年間の数値目標だと思うのですが、そもそもアンケートにあった冬季の観光客を伸ばしたいという島民事業者のアンケートを考えた場合ですね、毎月の商工観光課が持っているデータで、山なりの状態になるのですが、閑散期を何パー

セントアップして総数を何パーセント持っていくという数字の方が良いのではないかと思います。これだと閑散期が数字変わらなかった場合、現状が13万人だけど目標を14万人にしました。夏場だけが1万増えて、閑散期は去年と全く変わりませんでしたってなると、あまり意味がない数字なのかなと。

小嶺国土 策定準備委員)

こういうことですよね。(資料を見せながら)

中馬直樹 策定準備委員)

そうです。

小嶺国土 策定準備委員)

うちも同じ感覚ですが、これは、金額を表示している資料ですが、結局ここはもうキャパもいっぱいですよって例ですから。こことここをどうにかするっていう話になってこないと。

ライヴス黒岩)

冬に向けた基準で、限定するなり、実際こちらの方でも冬の閑散期に向けた基準が必要かなと考えていて、その視点を入れられたらなと思います。

金城肇 策定準備委員)

これあのブランド化につながるというか。そこで夏型っていうイメージのものを、秋から春にかけてそこをどう開発するかっていうことで。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

あとこの振興計画の9ページにステップアッププログラムっていう中で、冬季に触れているのですが、これは環境省と一緒に作ったものですけど、11月から3月までは約2万人。それを3万4千人までっていう目標はたてられています。今5か月で、3月は少し多いですけど、11、12、1、2は3000名のレベルで推移しています。11月から3月までの入域客をどこまで引き上げるのかっていう目標は設定した方が。

ライヴス黒岩)

こちらのステップアッププログラムにも。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

整合性を持たせる意味でもですね。

ライヴス黒岩)
含めた形で。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)
やった方がいいかなと思います。

石川) 他には何か。追加で。

金城肇 策定準備委員)
あの、国吉くんがいていた、この満足度のところがあったと思うのですが、地域に温度差があると思います。

石川)
地域でということでしょうか。

金城肇 策定準備委員)
事業者と村民でわけるともっと具体的になるかなと。

石川) あとはいかがですか？

花咲宏基 策定準備委員)
50、51 ページはあくまで弊社のほうで考えたプログラムなので、これにご意見をいただいて、削除するかどうかを決めます。また、外国人の入域者数とか加える項目があればご意見をいただければと思いますが、他にいかがでしょうか。

国吉晴大 策定準備委員)
何でもいいならいいですか？島に来ている人数。例えば一人なのか、二人なのか…。

花咲宏基 策定準備委員)
基準としては今データがあって。そのデータからの比較をとりますので。

国吉晴大 策定準備委員)
そういうのではない。

花咲宏基 策定準備委員)

そうですね。

国吉晴大（策定準備委員）
わかりました。大丈夫です。

金城渉（策定準備委員）
客単価はどうですか。

池松来（策定準備委員）
いくら使ったかというのはありますよ。

金城渉（策定準備委員）
どの層のシェアが高いのかは。

ライヴス黒岩）
具体的な数字というのは今出せていないのですが、観光客に対してのアンケートの中で、例えば宿泊に1000円から3500円とか。

花咲宏基（策定準備委員）
P24、25 ページのアンケート調査の報告で、渡嘉敷島で使った費用ということでお土産代、レジャー代、飲食代という形では数字が出ております。

ライヴス黒岩）
具体的な数字は、今の段階では出せない状況なのですが。例えばそういった枠のパーセンテージであるとか、所有の増減だとか、そういった目標では可能かと思います。ただ、アンケートのその部分でしか取れていないので、その正確性というのはなかなか難しいかなと。

金城渉（策定準備委員）
渡嘉敷の宿泊に特化しても、宿泊料5千円が60パーセント、7千円が30パーセント。お客さんが渡嘉敷に入って来る層と言える。どのくらいの予算で宿泊することが見えたらもって面白い。商工会では5千円でやっているが、7千円の宿泊費のシェアをもっと高めることを目標にするとか。その経営努力を商工会がフォローするのだと思います。

ライヴス黒岩）
考える要素になるように…。

金城渉 策定準備委員)

そこが観光振興計画の末端だと思います。

石川)

よろしいでしょうか。

池松来 策定準備委員)

その関連なのですが、去年、「島あっちい」に参加して、参加者のアンケートを詳しくとっています。二泊三日で一人当たりいくらかの数字を提供することができます。

花咲宏基 策定準備委員)

サンプル数はどのくらいでしょうか。

池松来 策定準備委員)

250 くらい。

花咲宏基 策定準備委員)

大きいですね。

石川)

じゃあその材料は。

池松来 策定準備委員)

今年も同じようにとっているのですが、宿泊以外で使ったお金が平均で7千円。二泊三日で夕食1回、昼食を2回食べるのも含めて、だいたい7千円の料金が出ています。例えば、それが、11月から3月までのお客さんで、今言っている凹んでいるところできたお客さんが、来たらこれだけ使いますよってというデータは、参考になるとは思います。

金城渉 策定準備委員)

夏場と冬場でマリンレジャーの違いがありますね。

池松来 策定準備委員)

そうですね、マリンレジャーをやらない分だけ、低いのもかもしれないけど。そういった、夏場に使った金額と比較することができれば、冬場に注目するポイントが見えると思います。

花咲宏基 策定準備委員)

すごくいい資料だと思いますし、共有すべきだと思います。このデータの数値化の活用としては、冬場と夏場と合わせたデータでなければならないとか、島あっちいがずっと継続するものであればいいですけど、島あっちいが終わった時に次にアンケートを30年どうやってとるかということも注意しなければならないと思います。そういった観点から、振興計画なので、継続できるかどうかという観点で選ばせてもらえればありがたいです。ただぜひその資料は共有できればありがたいですね。

池松来 策定準備委員)

はい。

石川)

よろしいですか。

小嶺国土 策定準備委員)

いいですか。51ページの4ですが、お土産品の開発っていう。今目標として追加の商品となっているじゃないですか。これって今お土産品を製造販売しているところに話を聞いたうえで記載ですか。

ライヴス黒岩)

この中は、総合計画の中に新商品を開発するっていうのが入ってしまっていて、それを踏襲するという形で入れています。

小嶺国土 策定準備委員)

実際毎日見ていると、新商品の開発っていうより品切れが多いという話が多いです。欲しいのだけど、どこに行ったら買えるのっていう話が多い気がします。

ライヴス黒岩)

であれば、現状のある商品についての増量というか、その辺も視点では入ってきます。

小嶺国土 策定準備委員) :

買えなかったから、消費が減っているのかなという気がするのですが。

目標として入れるっていうことは、新商品の開発も当然やっていくっていうことですよ。

ライヴス黒岩)

そうですね、お土産品の開発も取り組みの中に入れていっているので。

花咲宏基 策定準備委員)

上位計画の総合計画があって、それに振興計画を合わせることもあり、総合計画の中の観光関連のものは数値として入れるべきとの記載です。

小嶺国土 策定準備委員)

了解です。

花咲宏基 策定準備委員)

ただし、現状があって、実現できないのであれば削除した方が良いでしょう。

小嶺国土 策定準備委員)

今心配だったのが、記載してしまって、5年後に実現できないのなら、入れても意味がないかなと。

花咲宏基 策定準備委員)

そこは、中馬さんどうですか。

中馬直樹 策定準備委員)

そもそもお土産というライン引きが必要です。事業所によっては、お土産にフォトフレームを売っているところもあり、お土産というのは人それぞれ変わってくると思います。このお土産の商品っていうのはどこまでのレベルに持っていくのでしょうか。

ライヴス黒岩)

特産品というイメージだったのですが。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

特産品でないとカウントできないですよ。お土産というは無数にある。島にある素材を使ったという形で。

花咲宏基 策定準備委員)

総合計画では特産品ですね。

中馬直樹 策定準備委員)

商工会の立場からいうと、海産という話をすると、マリン、宿泊がこれだけ儲かってきて

いますので、そこでただでさえ人手が足りないのに、お土産の新規事業でやろうという考え方の人は非常に少ないです。作ったところでそれだけをさばけるかっていう。お土産分だけを採算取れるかっていう考えから、あんまり前向きな考え方の方はいらっしゃらないです。

ライヴス草間)

商工会さんが難しいとお話がありましたが、漁協さんについては、先ほどのお話通り、今売り切れが続出をしていて、新商品を開発するよりも、既存の商品を量産するということをお話されていました。

池松来 策定準備委員)

最近、漁協は新商品開発していますよね。

小嶺国土 策定準備委員)

ただ市場に出ない。

池松来 策定準備委員)

漁港に行かないとない。あそこだけ品揃えがすごい。

小嶺国土 策定準備委員)

あそこのやつもお土産品として生産するとなると廻らない。

池松来 策定準備委員)

試作品が多い。

小嶺国土 策定準備委員)

実際あっちがあいていないことが多いです。ターミナル内の漁協ブースが開いていないのは品物が無いからという話になっています。商工会さんの話にもありましたが、現在の事業者が特産品の開発に意欲が無いなら、ここで、目標の項目にあげる必要はないと思います。

花咲宏基 策定準備委員)

上位計画にもある数字なので、役場と相談させていただきます。

小嶺国土 策定準備委員)

上位計画に載っていると網羅しなければならないという考え方ですか。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

目標は作らないと到達しないっていうのがあるから。必ず到達するっていうことはないかもしれないけど、目標はたてる。目標に向かって努力するっていうのが振興計画なので。

石川)

ではそろそろできたところで。今後の流れを黒岩から話をさせていただきます。

ライヴス黒岩)

皆さんから意見をいただきましたので、これを改めて組み込んだ形で調整しまして一旦メールで修正したものという形でご報告いたします。そのあとに、12月14日に、策定委員会の予定をしております、修正したものを策定委員会でもむというような形を予定しております。その修正に関しても随時ご報告させていただきたいと思っております。予定としては、12月26日から1月8日までの2週間をパブリックコメントということで設定しております。それを終えて、その意見を最終的に策定委員会でもんでいただいて、最終のものにできればと考えております。策定委員会、パブリックコメントの意見も含め、随時ご連絡はさせていただこうと思っております。

金城渉 策定準備委員)

資料の作成なんですが、策定委員会による修正部分は分かるような形で示していただきたい。どこが、どう変わったかが分かるように。

ライヴス黒岩)

わかるような形にします。

花咲宏基 策定準備委員)

これで策定準備委員会の作業は終わるという形になります。今日いただいたご意見を反映したものをメーリングリストで流させていただいて、さらにご意見頂いて、修正したものを、14日の策定委員会でもみます。そして、策定委員会での作業によって、皆さんからのご意見が修正されたものが上がってくるという形になりますが、よろしいでしょうか。

<一同同意>

花咲宏基 策定準備委員)

個別で意見をいただいた委員の方々には、弊社の方から意見聴取したりとか、調整したりとか、行います。策定委員会に関しては、みなさんの意見のご意見を集約した案として進

めていきます。池松さんどうぞ。

池松来 策定準備委員)

素案を全体読ませていただいたの感想ですけど、最初の基本理念のところ、綺麗な渡嘉敷島の自然環境を守るというのも理念ですよ。その中で素案を見ていくと、いわゆるその部分の芯が最初から最後まで通っているように思われない部分があって、例えば55ページの最後の方ですけど、55ページのそれぞれの役割っていうところに、4番の村民のところには、素晴らしい自然環境や歴史文化など再認識って書いてあるのですが、それ以外のところにそういった内容が言葉として入ってないと思います。

花咲宏基 策定準備委員)

それ以外というのは、行政のところですか。

池松来 策定準備委員)

行政の中にも、全て村民ということであれば、それは村民のことにもかかってくるのかもしれないけど、行政の立場として、この理念のもとで何をするのか、どういう立場なのか、何に責任を持つのかってということが分かるようにして欲しい。

ライヴス黒岩)

はい。

池松来 策定準備委員)

書かれていないことが途中にもいっぱいある。観光協会もそうだし、この基本理念がどのページ、どこをめくっても、まあ匂いくらいはして欲しいなと思います。全体を通してこの基本理念のもとに作られたものっていうのは、めくればめくるほどわかるものに仕上げていただきたいなというのが要望です。

花咲宏基 策定準備委員)

ちょっとしたことかもしれないですけど、観光振興計画の前にタイトルを入れることもできるかもしれません。すべてのページに。

石川)

委員長。閉会の挨拶をお願いします。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

皆さま、ありがとうございました。第6回の準備委員会ということで、毎回貴重なお時間

をいただきまして、本日、素案が出来上がりました。策定委員会に提出したいと思います。12月14日に予定されていますので、それまでに、ライブスには今日出た意見をまとめてもらって、しっかりとした形で報告できるようによろしくお願いいたします。以上をもちまして、渡嘉敷村観光振興計画策定準備委員会は、すべての日程を終えるということで、皆さんよろしいでしょうか。

<一同同意>

小嶺哲雄（準備委員会委員長）

お疲れさまでした。